

2020年4月27日

## 第33回「京都美術文化賞」 受賞者決定について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 白波瀬 誠）では、財団の顕彰事業である第33回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 第33回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

#### 近藤 高弘（こんどう たかひろ・61歳）陶芸

正統派の器から彫刻的要素を持つ作品まで独自の技法とオリジナリティで幅広い作品を制作し、国内外で活躍している。

#### 山本 茜（やまもと あかね・42歳）截金ガラス

独自の技法を用いた美しい作品を制作。作品が大英博物館に収蔵されるなど国際的にも高く評価されている。

#### 宮永 愛子（みやなが あいこ・46歳）現代美術

時を視覚化する作品で注目を集め、国立国際美術館で個展を開催するなど活躍がめざましい。

### 2. 贈呈式

新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、開催時期を検討中。

### 3. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。

1988年5月の第1回に始まり、今回で第33回目の贈呈となりました。

#### (1) 選考委員(敬称略)

太田 垣 實 (美術評論家)

潮江 宏 三 (美術評論家)

篠原 資 明 (高松市美術館館長)

柳原 正 樹 (京都国立近代美術館館長)

冷泉 為 人 (公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長)

(2) 受賞記念展の開催

2021年1月開催予定

於:京都文化博物館

(3) 過去の受賞者(別紙一覧参照)

・受賞者総数 99名(今回を含む)

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 13名

工芸 37名(染織13名 陶芸17名 漆芸3名 截金1名 截金ガラス1名  
人形1名 ガラス造形1名)

その他 14名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名  
現代美術5名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞の秋野 不矩氏は1999年度文化勲章受章

第7回受賞の黒崎 彰氏は2008瑞宝中綬章受章

第9回受賞の岩倉 寿氏は2006年芸術院会員に選出

第9回受賞の木村 光佑氏は2012年瑞宝中綬章受章

第13回受賞の江里 佐代子氏は2002年当時史上最年少で人間国宝に認定

第19回受賞の宮瀬 富之氏は2009年日本芸術院賞を受賞

第24回受賞の森村 泰昌氏は2011年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激になっています。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価いただいています。

## 5. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(1986年11月)を記念して、1987年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府・市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。2019年京都市芸術振興賞を受賞いたしました。

以上

☆本件に関するお問い合わせは、京都中央信用金庫 On Your Side 事業部  
(TEL075-223-8385 FAX075-223-2563) までお願い申し上げます。

## 第33回京都美術文化賞受賞者略歴（敬称略）

### 近藤 高弘（こんどう たかひろ） 陶芸 61歳

1958年京都市生まれ。'85年京都府立陶工職業訓練校、'86年京都市工業試験場修了。'02年文化庁派遣芸術家在外研修員としてイギリスに派遣、'03年エディンバラ・カレッジ・オブ・アート修士課程修了。陶の素材や表現を基軸に金属やガラスとの融合など、陶芸の新たな造形を追求している。

展覧会：'07年個展「変容の刻 —Metamorphose—」（パラミタミュージアム／三重 他）、'14年「京焼歴代展—継承と展開—」（京都市美術館）、'16年個展「生水—うつろいゆくウツワ—」（瀬戸内市立美術館／岡山）、「—THE SCULPTURAL TURN— Contemporary Japanese Ceramics」（サンフランシスコ・アジア美術館／アメリカ）、'17年「“うつわ” ドラマチック」（滋賀県立陶芸の森 他）、個展「手の思想 近藤高弘展」（何必館・京都現代美術館）、'19年「アジア現代アート展」（ギメ東洋美術館／フランス）、「Kyoto: Capital of Artistic Imagination」（メトロポリタン美術館／アメリカ）、'20年「健在する日本の陶芸—不如意の先へ—」（益子陶芸美術館／栃木）など多数。

受賞：'94年京都市芸術新人賞、'03年 Inglis Allen Masters 賞など。

代表作：「Reduction—Wave—」（'17）、「Reduction」（'14）、「Blue Mist」（'09年）など。

### 山本 茜（やまもと あかね） 截金ガラス 42歳

1977年金沢市生まれ。'99年独学で截金を始め、2000年から重要無形文化財「截金」保持者の江里佐代子氏より伝統的截金技法を教わる。'01年京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻、'11年富山ガラス造形研究所造形科卒業。截金をガラスと融合させた截金ガラスを創成。京都市に個人工房設立。日本工芸会正会員。

展覧会：'13年「CRIA 展」（京都芸術センター）、'15年「美術でたどる物語」（高崎市タワー美術館／群馬）、'16年「琳派400年記念 新鋭選抜展—琳派 FOREVER—展」（京都府文化博物館）、「IKI 粋 SUI 展」（染・清流館／京都）、「源氏物語展—雅のDNA—」（高知県立文学館）、「第二回菊池寛実賞『工芸の現在』展」（菊池寛実記念智美術館／東京）、個展「截金ガラス展—斎王の旅—」（高島屋日本橋店美術画廊）、'17年「石川の工芸 女性作家のきらめき」（石川県立美術館）、'18年「キラメク工芸・カガヤク日本画」（佐野市立吉澤記念美術館／栃木）、'19年「第21回岡田茂吉賞展『現代日本工芸の最前線』」（MOA美術館／静岡）、'20年「創る女たち展」（佐野市立吉澤記念美術館／栃木）など多数。

今後の展覧会：「きらめく美—北陸ゆかりの截金作家たち—」（石川県立美術館）会期2020年6月20日～7月26日、「和巧絶佳—令和時代の超工芸—」（パナソニック汐留美術館／東京）会期2020年7月18日～9月22日

受賞：'13年京都市芸術新人賞、'14年第61回日本伝統工芸展NHK会長賞、'15年伝統文化ポークラ賞奨励賞、'16年京都府文化賞奨励賞、京都府あけぼの賞、'19年作品「Leaf Boat」大英博物館買い上げなど。

代表作：源氏物語シリーズ第三帖「空蟬」（'19年）、「一葉舟」（'18年）、截金硝子長方皿「流行」（'14年）など。

### 宮永 愛子（みやなが あいこ） 現代美術 46歳

1974年京都市生まれ。'99年京都造形芸術大学芸術学部美術科彫刻コース卒業。'08年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。常温で昇華する性質をもつナフタリン、陶器の貫入音、塩や葉脈、土地の記憶の結晶である地産の石などを用い、繊細な視点で「変わりながらも存在し続ける世界」を表現する。

展覧会：'04年「INDEXLESS 日比野克彦・宮永愛子」（アサヒビール大山崎山荘美術館／京都）、'09年個展「第3回 shiseido art egg：地中からはなつ島」（資生堂ギャラリー／東京）、「アーティスト・ファイル2009—現代の作家たち」（国立新美術館／東京）、'12年個展「宮永愛子：なかそら—空中空—」（国立国際美術館／大阪）、'13年「日産アートアワード2013」（BankART Studio.NYK／神奈川）'17年個展「みちかけの透き間」（大原美術館有隣荘／岡山）、'18年個展「life」（ミヅマアートギャラリー／東京）、'19年「Repetition and Difference: About Time」（釜山市立美術館／韓国）、瀬戸内国際芸術祭「ヘアサロン 壽」（高松女木島／香川）、個展「宮永愛子：漕法」（高松市美術館／香川）、'20年個展「うたかたのかさね」（京都文化博物館別館ホール／京都）など多数。

受賞：'13年日産アートアワード初代グランプリ、'20年第70回芸術選奨文部科学大臣新人賞など。

代表作：「漕法II」（'19）、「waiting for awakening -chair-」（'19）、「景色のはじまり」（'11）など。

## 京都美術文化賞 受賞者

※は故人

第1回(1988年5月)	※秋野 不矩(日本画)	※小牧 源太郎(洋画)	坪井 明日香(陶芸)
第2回(1989年5月)	※麻田 浩(洋画)	小清水 漸(彫刻)	※伊砂 利彦(染色)
第3回(1990年5月)	※中野 弘彦(日本画)	※三尾 公三(洋画)	※藤平 伸(陶芸)
第4回(1991年5月)	竹内 浩一(日本画)	井田 彪(彫刻)	樂 吉左衛門(陶芸)
第5回(1992年5月)	※吉原 英雄(版画)	※野崎 一良(彫刻)	※南 祥輝(漆芸)
第6回(1993年5月)	中野 嘉之(日本画)	内田 晴之(彫刻)	面屋 庄甫(人形)
第7回(1994年5月)	※黒崎 彰(版画)	※鈴木 治(陶芸)	※来野 月乙(染色)
第8回(1995年5月)	※下村 良之介(日本画)	※番浦 有爾(彫刻)	深見 陶冶(陶芸)
第9回(1996年5月)	※岩倉 寿(日本画)	木村 光佑(版画)	※富樫 実(彫刻)
第10回(1997年5月)	※下保 昭(日本画)	※齋藤 真成(洋画)	※西嶋 武司(染色)
第11回(1998年5月)	※芝田 耕(洋画)	※山田 光(陶芸)	澁谷 和子(染色)
第12回(1999年5月)	※小嶋 悠司(日本画)	林 康夫(陶芸)	※服部 峻昇(漆芸)
第13回(2000年5月)	※堂本 元次(日本画)	※井上 隆雄(写真)	※江里 佐代子(截金)
第14回(2001年5月)	※渡辺 恂三(洋画)	木代 喜司(彫刻)	福本 繁樹(染色)
第15回(2002年5月)	※岩本 和夫(日本画)	小林 陸一郎(彫刻)	※栗木 達介(陶芸)
第16回(2003年5月)	※森本 勇(洋画)	竹内 三雄(彫刻)	河田 孝郎(染色)
第17回(2004年6月)	加藤 明子(洋画)	※木田 安彦(版画)	林 秀行(陶芸)
第18回(2005年6月)	吉川 弘(日本画)	柳原 睦夫(陶芸)	望月 玉船(漆芸)
第19回(2006年6月)	西野 陽一(日本画)	宮瀬 富之(彫刻)	上野 真知子 (ファイバーアート)
第20回(2007年6月)	※入江 西一郎(日本画)	平岡 靖弘(洋画)	井隼 慶人(染色)
第21回(2008年6月)	木村 秀樹(版画)	秋山 陽(陶芸)	松本 ヒデオ(陶芸)
第22回(2009年6月)	三橋 遵(染色)	八木 明(陶芸)	甲斐 扶佐義(写真)
第23回(2010年6月)	西久松 吉雄(日本画)	野村 仁 (マルチメディア・アート)	田島 征彦(染色)
第24回(2011年6月)	山本 容子(版画)	小林 尚美 (ファイバーアート)	森村 泰昌(現代美術)
第25回(2012年5月)	川村 悦子(洋画)	福本 潮子(染色)	伊部 京子(ファイバーアート)
第26回(2013年5月)	麻田 脩二(染色)	清水 六兵衛(陶芸)	川瀬 敏郎(花人)
第27回(2014年5月)	畠中 光享(日本画)	西野 康造(彫刻)	生田 丹代子(ガラス造形)
第28回(2015年5月)	浅野 均(日本画)	今村 源(彫刻)	久保田 繁雄(ファイバーアート)
第29回(2016年5月)	森田 りえ子(日本画)	松井 利夫(陶芸)	ヤノベ ケンジ(現代美術)
第30回(2017年5月)	箱崎 睦昌(日本画)	山部 泰司(洋画)	やなぎ みわ(現代美術)
第31回(2018年5月)	小名木 陽一(織)	重松 あゆみ(陶芸)	鈴鹿 芳康(写真造形)
第32回(2019年5月)	名和 晃平(彫刻)	八幡 はるみ(染)	柏原 えつとむ(現代美術)
第33回(2020年)	近藤 高弘(陶芸)	山本 茜(截金ガラス)	宮永 愛子(現代美術)

絵画 35名 (日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 13名

工芸 37名 (染織13名 陶芸17名 漆芸3名 截金1名 截金ガラス1名 人形1名 ガラス1名)

その他 14名 (写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名 花人1名

現代美術5名)

計 99名